

ときめき人

Tokimeki bito



自分の弱さ知り 躍進を遂げる 和道会全国空手道 競技大会優勝

南方町・原

川熊 海斗さん

かわくま かいと
2004年生まれ 南方中2年

全日本空手道連盟和道会

国内1350支部、海外250支部、会員約185万人、有段者約18万人を擁し、空手団体としては日本有数の規模を誇る。柔術(神道揚心流)の影響が色濃い流派で「さばき」「流し」「押し」「引き」「入り身」「転身」などの技法が特徴。松濤館流、剛柔流、糸東流と並び、空手の4大流派の一つに数えられている。

「昨年までは初戦敗退だったので、優勝できると思いませんでした」と喜びの表情を見せた。

第54回和道会全国空手道競技大会は8月18、19の両日、日本武道館などで開かれ、中学男子組手の部で自身初の優勝を手にした。

空手を始めたのは5歳の頃。父の知人から誘われたのがきっかけで和道会菊田道場に入門した。「全中(全国中学生空手道選手権大会)は県予選で負けて悔しかったので、この大会では勝ちたかった。まずは初戦突破が目標」と話す川熊さんは、小学6年から2年連続で出場したが、いずれも初戦敗退。「大会になると緊張して体が動かなくなる。技術も大切だが、気持ちの弱さが最大の課題」と自分の弱点に向き合い稽古に励んだ。

「今年こそ絶対に勝つ」と強い気持ちで臨んだ大会では、目標にしていた初戦を難なく勝利。「初戦を突破して自信が持てた」と、その後も快進撃を見せ、準決勝まで駒を進める。迎えた準決勝、相手は昨年準優勝の実力者だ。「相手は強いが、自分ができることをやろう」と平常心で自分の空手を貫き、5対4で接戦を制した。続く決勝、序盤は相手のフェイントに惑わされ、得意のカウンターのタイミングが合わなかったが、冷静に相手を観察し、試合中にタイミングを合わせて勝利。強い気持ちと冷静な状況判断が優勝へと導いた。

「優勝できたのはうれしいが、3年生になる来年こそは全中に出場したい」。強い決意を胸に秘め、さらなる高みを目指す。

編集後記

▼芸術の秋。劇団ドリム☆キッズのミュージカルを取材しました。舞台裏では、カメラを向けるとピースサインをしてくれた子どもたち。和気あいあいとした雰囲気、無邪気に笑い合っていた子どもたち、本番になると一変。真剣な眼差しで演じている姿に圧倒されました。(小野寺)

▼中総体新人戦の取材に行ってきました。6月の中総体のときは、まだ幼さが残っていた1年生も堂々とプレーしていました。子どもの成長は本当にあつという間だと実感。親として、子どもの成長に負けないように、自分も成長していきたいです。(高橋)

▼9月に開催された長沼レガッタに参加しました。初日の練習では、艇を出発させることすらできませんでした。練習を重ね、大会では決勝に進出。決勝戦では負けてしまいましたが、青空のもと、良い思い出を作ることができました。参加、運営した皆さん大変お疲れ様でした。(三浦)



登米市メール配信サービス

(防犯や防災、イベント・市政に関する情報をメールでお届けします。)
<https://mail.cous.jp/tomecity/>

